

夕張市地域公共交通協議会

平成24年4月1日設置



概要

高齢化が急速に進展する夕張市において、公共交通は、市民の日常生活の足として重要な位置を占めることとなるが、現状の事業運営環境は、マイカーの普及や人口減少の影響を受け非常に厳しいものとなっており、路線の維持確保に苦慮している。

夕張市では、「安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆうばり」を掲げた「夕張市まちづくりマスタープラン」を、平成24年3月に策定したが、これらの状況を踏まえ、従来の公共交通体系を見直し、市民にとって利用しやすく、将来にわたって持続可能な公共交通体系を構築するため調査を実施した。

○地域公共交通の現況

- ・JR石勝線本線(滝ノ上駅～新夕張駅)
- ・JR石勝線夕張支線(新夕張駅～夕張駅)
- ・夕張鉄道(株)(市内5路線)
- ・夕張第一交通(株)、丸北ハイヤー(有)(ハイヤー) など

○地域公共交通の課題

- ・高齢者等の生活の足の確保
- ・南北軸の公共交通の強化
- ・市外移動との結節点の強化
- ・財政負担に配慮した取り組みが必要

○調査の主な内容

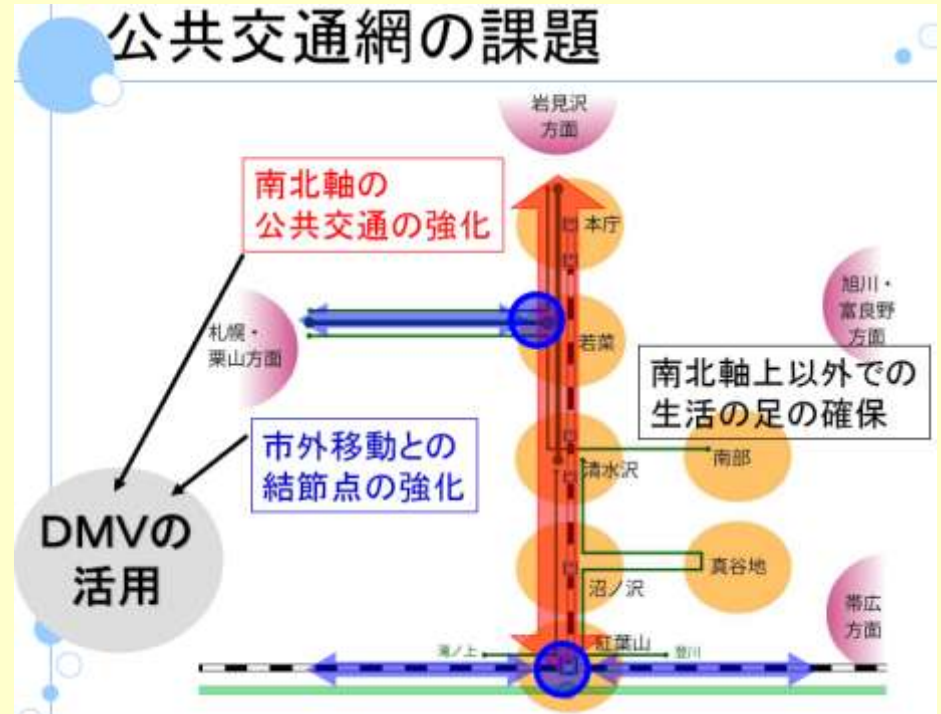
- ・現況交通実態調査
- ・市民及び利用者ニーズの把握
- ・DMVの導入可能性調査
- ・生活交通ネットワーク計画素案検討

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 5月28日 第1回協議会を開催
 - ・主な協議事項:平成24年度実施計画(案) 等
- 1月18日 第2回協議会を開催
 - ・主な協議事項:夕張市生活交通ネットワーク計画の基本的な考え方 等
- 3月11日 第3回協議会を開催
 - ・主な協議事項:夕張市生活交通ネットワーク計画(案) 等

○将来の都市構造を見据え、持続可能な交通体系を構築

現状:JR、バス、タクシー(2社)が事業運営しているが、人口減少に伴い、公共交通の維持・確保が危機的な状況



夕張市地域公共交通協議会 調査事業の取組状況

●調査事業の結果概要

- ・交通事業者や観光事業者等にヒアリングを実施した。
- ・市民を対象としたアンケートを実施するとともに、市内6地区での説明会、郊外地区での座談会、全体説明会などを通じて、市民の交通利用に関する生の声やニーズを把握した。
- ・本協議会に、DMV導入可能性検討分科会を設置し、当該分科会で、DMVの導入可能性について検討し、課題整理等を行った。
- ・上記の結果を活かして生活交通ネットワーク計画素案を検討した。

●調査事業実施の適切性

夕張市では、将来的な都市構造を踏まえた持続可能な交通システムを構築することが求められており、これを実現するためには、市民の意見を聴きながら進めていくことが必要不可欠となる。

また、全国初の営業運転の誘致を目指しているDMVは、都市構造の変化に対応する持続可能な交通システム構築を期待できるものである。

本調査は、現状分析及び利用実態の把握、DMVの運用可能性の調査をするものであり、適切に実施された。

●生活交通ネットワーク計画等の計画策定に向けた方針

夕張市では、コンパクトなまちづくりを目指しているが、この中で重要な要素である公共交通については、多くの課題を抱えている。現在の公共交通体系を見直すために、「住民の移動実態に配慮した交通体系の構築」と「財政負担に配慮するとともに、将来の都市構造を踏まえた持続可能な交通体系の構築」を基本的な考え方として進める必要がある。

当該考え方にに基づき、

- ①南北軸の公共交通サービスの強化 ②交通結節点の強化
- ③効率的な交通システムへの転換 ④公共交通の利用促進
- ⑤都市構造の変化に合わせた柔軟な運用と見直し

の5点を夕張市の生活交通ネットワーク計画を策定するための方針とし、検討を進めていくこととする。

また、この方針を実現するために、①DMVの導入、②デマンド交通等の導入可能性の検討、③バス路線の見直し、④公共交通の利用促進、の4つの取り組みを進めていき、利便性が高く、持続可能な公共交通システムを構築していくこととする。



●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

次に掲げる点についてアドバイスする。

- ・今後の検討に当たっては、デマンドにとらわれず、地域にとって最適な手段が導入できるよう、道外を含めた類似事例の収集・研究等を綿密にされたい。またその際、DMVとバス・タクシー等その他の交通手段間や各交通事業者間の役割分担、乗り継ぎ円滑化、市内全体の交通体系のあり方にも留意されたい。
- ・将来的な持続可能性にも配慮した運賃及び広告収入等の運賃外収入のあり方並びにそれらを踏まえた自治体及び事業者等との間の費用分担のあり方についても検討されたい。